

2020年7月21日

各位

三井住友ファイナンス&リース株式会社

GE ヘルスケア・ジャパン製「CT in Box」のリース取扱開始について

三井住友ファイナンス&リース株式会社(取締役社長:橘 正喜、以下「SMFL」)は、GE ヘルスケア・ジャパン株式会社(以下「GE ヘルスケア」)が供給する「CT in Box」の販売に際し、短期リースをはじめとするファイナンスサービスを提供します。

CT in Box は、GE ヘルスケアが新型コロナウイルス感染症に対応するために開発したコンピュータ断層診断(Computed Tomography)を行う簡易 CT 検査室です。プレハブを遮蔽仕様にしたコンテナ形式の構造としており敷地内の駐車場や中庭などの隔離された空スペースに設置することができます。また、検査対象者や医療従事者の動線を専用に確保し一般患者との接触を抑えることで院内での感染予防が図られています。

GE ヘルスケアでは、最初に感染発生が確認された中国で CT in Box を提供して以来、世界規模で感染が拡大する状況下、既に100台以上を稼働させています。日本でもCT検査が重要視され検査施設の整備が喫緊の課題となる中、CT in Box を供給することとしました。今般、本邦で初めて国立病院機構 高崎総合医療センターで導入され、その際に SMFL のリーススキームが採用されました。

SMFL は、CT in Box の感染症対策の一時使用のニーズに対して、短期リース、オペレーティング・リース、譲渡条件付きリースなどのリーススキームを提供します。リース期間は原則6ヶ月から12ヶ月としますが、長期にわたる使用を希望される場合にも対応します。対象設備は CT 本体、コンテナ Box、無停電源設備の他、プレハブ内に設置される X 線防護シールド、空調、換気扇など一式をユーザーの設置プランに合わせて提案します。また、リース期間満了後の設備の撤去および廃棄サービスも併せて提供します。ユーザーは、リースを活用することで、導入時の資金負担を大幅に低減することが可能になります。また、全ての設備・機器を対象とし、撤去・廃棄まで含めたスキームとすることで、一時的な感染症対策として導入することができます。

SMFL は、国内トップクラスの医療機器のリース取扱実績とヘルスケア分野で培ってきた知見・ノウハウおよびパートナーとのアライアンスをもとに、医療機関向けにさまざまなファイナンスサービスやスキームを提供しています。これからも、医療現場を支援する付加価値の高いサービスを提供することで、持続可能な医療・介護の実現に貢献していきます。



(写真)高崎総合医療センターに導入された GE ヘルスケア製「CT in Box」

以 上

**【お問合せ先】**

三井住友ファイナンス&リース株式会社 企画部 広報 IR 室 山本 TEL 03-5219-6334